

# 藤本建夫教授 略歴・著作目録



## 藤本建夫教授略歴

1946（昭和21）年12月24日に高知県に生まれる。

### 学 歴

- |               |                   |        |
|---------------|-------------------|--------|
| 1965（昭和40）年4月 | 岡山大学法文学部経済学科      | 入学     |
| 1969（昭和44）年3月 | 同上                | 卒業     |
| 1969（昭和44）年4月 | 京都大学大学院経済学研究科修士課程 | 入学     |
| 1971（昭和46）年3月 | 同上                | 修了     |
| 1971（昭和46）年4月 | 京都大学大学院経済学研究科博士課程 | 入学     |
| 1974（昭和49）年3月 | 同上                | 所定単位修得 |

### 学 位

経済学博士（京都大学） 1985（昭和60）年9月24日  
学位論文『ドイツ帝国財政の社会史』（時潮社、1984年）

### 職 歴

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1973（昭和48）年4月1日  | 助手  |
| 1974（昭和49）年4月1日  | 講師  |
| 1978（昭和53）年4月1日  | 助教授 |
| 1983（昭和58）年4月1日  | 教授  |
| 2015（平成27）年3月31日 | 退職  |

## 講義科目

経済政策，現代ヨーロッパ経済，震災と地域経済，基礎ゼミⅠ・Ⅱ，ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ，外書講読等

## 所属学会

政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会），経済学史学会，日本 EU 学会，ドイツ現代史研究会

## 在外研究

1977（昭和52）年6月～1978（昭和53）年9月，ダルムシュタット工科大学（Technische Hochschule Darmstadt）（DAAD〔ドイツ学術交流会〕奨学生（Schwäbisch Hall の Goethe Institut での4か月のドイツ語研修を含む））

1989（昭和64）年7月～9月，マールブルク大学（Universität Marburg）（DAAD）

1992（平成4）年4月～1993（平成5）年3月，ボン大学（Universität Bonn）（甲南学園）

1999（平成11）年7月～9月，ライプツィヒ大学（Universität Leipzig）（私学研修福祉会）

## 甲南学園における役職

事務局参与，事務局庶務部参与，学長補佐，理事，評議員，経済学部長，大学院社会科学研究科経済学専攻主任，大学院社会科学研究科長，企画室長等を歴任

## 賞罰

1993（平成5）年4月21日 永年勤務による表彰（20年表彰）

2003（平成15）年4月21日 永年勤務による表彰（30年表彰）

## 藤本建夫教授著作目録

### 単著

1. 『何が地方都市再生を阻むのか—ポートピア '81, 阪神・淡路大震災, 経済復興政策—』, 晃洋書房, 2010年3月
2. 『ドイツ自由主義経済学の生誕—レプケと第三の道—』, ミネルヴァ書房, 2008年3月
3. 『東京一極集中のメンタリティー』, ミネルヴァ書房, 1992年4月
4. 『ドイツ帝国財政の社会史』, 時潮社, 1984年11月

### 共編著

1. 『経済学の地下水脈』(羽鳥卓也, 坂本正, 玉井金五と共編著), 晃洋書房, 2012年6月
2. 『脳卒中リハビリ奮戦記』(藤本芳子と共著), ミネルヴァ書房, 2003年11月
3. 『阪神大震災と経済再建』, 勁草書房, 1999年8月
4. 『復興の政治経済学—阪神大震災の記録3—』, 晃洋書房, 1997年10月
5. 『甲南大学の阪神大震災』(森田三郎と共編著), 神戸新聞総合出版センター, 1996年11月
6. 『1995.1.17を証言する 第2部: 甲南大学受験生による震災体験の記録』(3分冊。森田三郎と共同編集), 甲南大学阪神大震災調査委員会, 1997年3月
7. 『1995.1.17を証言する 第1部: 甲南大学学生・教職員による震災体験の記録』(3分冊。森田三郎と共同編集), 甲南大学阪神大震災調査委員会,

1996年3月

8. 『戦後日本の経済文化』, 甲南大学総合研究所, 12巻, 1989年

### 平生鈞三郎日記編集

1. 『平生鈞三郎日記 第十巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2014年12月
2. 『平生鈞三郎日記 第九巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2014年5月
3. 『平生鈞三郎日記 第八巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2013年12月
4. 『平生鈞三郎日記 第七巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2013年5月
5. 『平生鈞三郎日記 第六巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2012年11月
6. 『平生鈞三郎日記 第五巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2012年4月
7. 『平生鈞三郎日記 第四巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集。  
「後記」執筆), 甲南学園, 2011年11月
8. 『平生鈞三郎日記 第三巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集),  
甲南学園, 2011年6月
9. 『平生鈞三郎日記 第二巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集),  
甲南学園, 2010年12月
10. 『平生鈞三郎日記 第一巻』(甲南学園平生鈞三郎日記編集委員会編集),  
甲南学園, 2010年3月

翻訳

1. スティーヴン・コールバーグ（甲南大学ウェーバー研究会訳）『マックス・ヴェーバーの比較歴史社会学』、ミネルヴァ書房、1999年3月
2. H.-U. ヴェーラー編（ドイツ現代史研究会訳）『ドイツの歴史家 第5巻』、未来社、1985年3月
3. ヘルムート・ベーム（大野英二と共訳）『現代ドイツ社会経済史序説』、未来社、1976年6月
4. フリードリヒ・テンブルック「ドイツにおけるウェーバー論争の現状」、『甲南経済学論集』、32巻1号、1991年

論文

1. 「甲南大学での研究生活42年を振り返って—三つの知的水脈との邂逅—」、『甲南経済学論集』、55巻3・4号、2015年
2. 「日本の商道德の頹廃と教育の役割」、安西敏三編『現代日本と平生鈺三郎』、晃洋書房、2015年
3. 「伊方原発と周辺自治体—原発交付金制度の変容—」（野村亮輔と共同執筆）、『甲南経済学論集』、55巻1・2号、2015年
4. 「平生鈺三郎—日本人の商道德と教育—」、心学明誠舎『こころをみがく—石門心学文集（三）』、2013年
5. 「平生鈺三郎と第一次世界大戦—「成金」経済下の内政と外交—」、『社会科学論集（愛知教育大学）』、49号、2011年
6. 「ドイツ自由主義経済学における市場と福祉—W. レプケの社会経済思想をめぐって—」、『経済学史研究』、52巻2号、2011年
7. 「平生鈺三郎と日本社会の経済倫理—第一次世界大戦と日本の対応—（1）」、『甲南経済学論集』、50巻1・2・3・4合併号、2010年
8. 「グローバル化する経済と世界大不況」、『ひょうご経済』、102巻、2009年

9. 「競争的市場経済と補完性原理」, 『甲南大学総合研究所叢書』, 100巻, 2009年
10. 「ドイツにおける秩序経済学の誕生と戦後経済復興構想」, 『甲南経済学論集』, 47巻3号, 2006年
11. 「レプケが描いた戦後国際経済秩序」, 『関東学院大学経済学会「経済系」』, 227巻6号, 2006年
12. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(10)—」, 『甲南経済学論集』, 45巻1号, 2004年
13. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(9)—」, 『甲南経済学論集』, 44巻4号, 2004年
14. 「阪神・淡路大震災と経済再建」, 『DRI 調査研究レポート』, 4巻, 2004年
15. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(8)—」, 『甲南経済学論集』, 43巻3号, 2002年
16. 「高齢化と老人医療—脳卒中問題を中心に一—」, 『甲南経済学論集』, 43巻1号, 2002年
17. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(7)—」, 『甲南経済学論集』, 42巻4号, 2002年
18. 「決着の日—1989年10月9日, ライプツィヒ—」, 『岡山大学経済学会雑誌』, 32巻4号, 2001年
19. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(6)—」, 『甲南経済学論集』, 39巻1号, 1998年
20. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(5)—」, 『甲南経済学論集』, 38巻4号, 1998年
21. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(4)—」, 『甲南経済学論集』, 38巻2号, 1997年



藤本建夫教授 略歴・著作目録

22. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—(3)」, 『甲南経済学論集』, 38巻1号, 1997年
23. 「ボルヒャルト論争によせて—同時代人たちの「思考の余地」—」, 『土地制度史学』, 37巻4号, 1995年
24. 「大不況と経済政策論争」, 『甲南経済学論集』, 34巻4号, 1994年
25. 「ワイマル共和国末期の雇用創出計画—「失業問題調査委員会」の答申をめぐって」, 『甲南経済学論集』, 34巻2号, 1993年
26. 「レプケーあるドイツ・リベラリストの肖像—」, 『甲南経済学論集』, 31巻2号, 1990年
27. 「ピューリタニズム・原始仏教・新新宗教—M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』のもうひとつの読み方」, 『甲南経済学論集』, 30巻4号, 1990年
28. 「寺子屋教育の現代史的考察—ひとつの私論—」, 『ユスティティア』, 1巻, 1990年
29. 「学習塾—その社会史的考察—」, 『甲南経済学論集』, 29巻3号, 1988年
30. 「西ドイツにおける戦後経済秩序の形成(2)—W. レプケの社会・経済思想—」, 『甲南経済学論集』, 29巻2号, 1988年
31. 「西ドイツにおける戦後経済秩序の形成(1)—W. レプケの社会・経済思想—」, 『甲南経済学論集』, 29巻1号, 1988年
32. 「プロイセン初等教育政策の展開と財政」, 川本和良他編『比較社会史の諸問題』, 未来社, 1984年
33. 「社会帝国主義下のドイツ帝国財政(1)」, 『甲南経済学論集』, 24巻3号, 1984年
34. 「「新航路」下のプロイセン租税改革(下)」, 『甲南経済学論集』, 24巻1号, 1983年
35. 「「新航路」下のプロイセン租税改革(中)」, 『甲南経済学論集』, 23巻2

- 号, 1982年
36. 「「新航路」下のプロイセン租税改革 (上)」, 『甲南経済学論集』, 23卷1号, 1982年
37. 「第一次大戦下の左翼急進主義と労働者大衆 (下)」, 『甲南経済学論集』, 22卷2号, 1981年
38. 「第一次大戦下の左翼急進主義と労働者大衆 (上)」, 『甲南経済学論集』, 22卷1号, 1981年
39. 「プロイセン地租法の諸問題 (下)」, 『甲南経済学論集』, 20卷4号, 1980年
40. 「プロイセン地租法の諸問題 (上)」, 『甲南経済学論集』, 20卷3号, 1980年
41. 「西ドイツにおける社会史研究」, 『講座 西洋経済史V 経済史学の発達』, 同文館, 1979年
42. 「ヒューネ法と地租・家屋税委譲論 (二)」, 『甲南経済学論集』, 19卷3号, 1978年
43. 「ヒューネ法と地租・家屋税委譲論 (一)」, 『甲南経済学論集』, 19卷2号, 1978年
44. 「ドイツ帝国財政制度に関する一試論 — 帝国相続税の導入をめぐって —」, 『甲南経済学論集』, 17卷2号, 1976年
45. 「服部之総の日本資本主義像についての覚書」, 『甲南経済学論集』, 14卷3号, 1973年
46. 「ドイツ国民経済会議における自由貿易 — ドイツ自由貿易運動の歴史的  
性格 (2) —」, 『経済論叢 (京都大学)』, 109号4・5・6号, 1972年
47. 「ドイツ国民経済会議における営業の自由 — ドイツ自由貿易運動の歴史的  
性格 (1) —」, 『経済論叢 (京都大学)』, 109号2号, 1972年

欧文論文

1. Lessons from the age of post-war economic miracle in Japan, in; Proceedings of world conclave of scientists on regional cooperation in science and technology: Opportunities and challenges in the context of globalization, Nov. 2010, Indian National Academy, New Delhi.
2. Tokyo—Zentralismus, Konan journal of social sciences, vol. 5, 1994.
3. Sozialgeschichtliche Betrachtung der Finanzpolitik im Deutschen Kaiserreich (5), 『甲南経済学論集』, 28巻1号, 1987
4. Sozialgeschichtliche Betrachtung der Finanzpolitik im Deutschen Kaiserreich (4), 『甲南経済学論集』, 27巻3号, 1986
5. Sozialgeschichtliche Betrachtung der Finanzpolitik im Deutschen Kaiserreich (3), 『甲南経済学論集』, 27巻2号, 1986
6. Sozialgeschichtliche Betrachtung der Finanzpolitik im Deutschen Kaiserreich (2), 『甲南経済学論集』, 27巻1号, 1986
7. Sozialgeschichtliche Betrachtung der Finanzpolitik im Deutschen Kaiserreich (1), 『甲南経済学論集』, 26巻4号, 1986

評論・エッセイ・辞典・新聞

1. 「平生鈺三郎と灘購買組合」, 『甲南 Today』, no. 47, 2015年3月
2. 「二人の甲南高校生の悲劇」, 『平生鈺三郎日記 第十巻』, 栞, 2014年
3. 「平生鈺三郎と御真影」, 『甲南 Today』, no. 46, 2014年9月
4. 「伊藤忠兵衛甲南学園理事長談話 (一～四)」, 『平生鈺三郎日記 第五巻』  
～『平生鈺三郎日記 第八巻』, 栞, 2012～2013年
5. 「松方コレクション—平生鈺三郎日記から—」, 『甲南 Today』, no. 45,  
2014年3月
6. 「Apulien—ゼミ旅行の思いで」, 『Echo 29』, 2013年11月

7. 「クロッケーと平生家の人々」, 『甲南 Today』, no. 44, 2013年9月
8. 「清水善造と平生鈺三郎」, 『甲南 Today』, no. 43, 2013年3月
9. 「雑食性の学問のすすめ」, 甲南大学経済学会 『甲南大学経済学部入門のしおり 2013』, 2013年
10. 「旧制甲南中学校の誕生」, 『甲南 Today』, no. 40, 2012年1月
11. 「実業家・平生 苦闘の歩み」, 『朝日新聞』, 2011年3月25日
12. 「震災から15年。神戸経済を再生する方法を探る」, 『甲南 Today』, no. 36, 2010年5月
13. 「あるアメリカ人教授の嘆き」, 甲南大学経済学会 『甲南大学経済学部入門のしおり 2010』, 2010年
14. 「「シーメンス事件」に見る平生鈺三郎の正義と「恥」」, 『甲南 Today』, no. 35, 2009月12月
15. 「経済政策にも災害の勘案必要」, 『毎日新聞』, 2008年3月12日
16. 「離陸のためのエネルギー」, 甲南大学経済学会 『経済学入門のしおり 2007』, 2007年
17. 「京都時代の野田君」, 『関東学院大学経済学会「経済系」』, 227巻6号, 2006年
18. 「東京一極集中をもたらす意識への移転による影響に関する調査」, 国土交通省国土計画局, 平成13(2001)年3月
19. 「地域の資源を積極活用」, 『神戸新聞』, 1999年11月26日
20. 「ライブツィヒで思ったこと」, 甲南学園広報室 『Konan Express』, 7巻3号, 1999年11月
21. 「震災被災地同行ルポ：ベンチャーに大きな期待。地場産業を見捨てれば文化も衰退する」, 『毎日新聞』, 1999年1月20日
22. 「キレル」, 甲南大学入試事務室 『New Views by Konan University』, no. 1, 1998年9月

藤本建夫教授 略歴・著作目録

23. 「'98 参院選：不況ひょうご：地方から流れ変えよう」, 『毎日新聞』, 1998年7月10日
24. 「歴史学派経済学」, 『歴史学辞典 6 歴史学の方法』, 弘文堂, 1998年
25. 「My Professor/My Seminar」, 甲南学園広報室『Konan Express』, 4巻3号, 1996年11月
26. 「震災トラウマはいかに「癒さ」れたか」, 『大学時報』, 45巻250号, 1996年9月
27. 「無防備の大学の危機管理」, 『大学時報』, 44巻244号, 1995年9月
28. 「日常性に復帰することの意味」, 『学園だより』, no. 87, 1995年6月
29. 「阪神・淡路大震災：忘れてはならないもの：甲南大学が体験, 研究集まとめる」, 『公明新聞』, 1997年10月12日
30. 「コラム・東京にひとこと：価値観の転換なき移転計画」, 『経済セミナー』, 1993年10月
31. 「現代ドイツ事情」, 甲南大学経済学会『経済学会ニュース』, 1993年10月
32. 「『臨教審第二次答申』を読んで」, 『甲南大学国庫助成委員会会報』, 5号, 1986年12月
33. 「レプケ『ヒューマンイズムの経済学』」, 甲南大学図書館報『藤棚』, 6巻3号, 1990年
34. 「学習塾の社会史：源流, 寺子屋の功利主義」, 『毎日新聞』, 1989年6月1日
35. 「学生だったころ」, 甲南大学学生部学資係『奨学金だより』, 1989年4月
36. 「山口先生とウェーバー研究会」, 『山口和男先生追悼集』, 1987年4月
37. 「私の「ふるさと」」, 甲南大学学生部『学生部だより』, 1981年11月
38. 「西ドイツにおけるゼミナールの風景」, 甲南大学経済学会『経済学会ニュー

ス』, 1978年6月

## 書評

1. 雨宮昭彦『競争秩序のポリテイクス—ドイツ経済政策思想の源流—』(東京大学出版会, 2005年), 『社会経済史学』, 71巻6号, 2006年3月
2. 雀部幸隆『ウェーバーとワイマール—政治思想史的考察—』(ミネルヴァ書房, 2001年), 『歴史と経済』, 45巻1号, 2002年10月
3. 大島道義『総力戦時代のドイツ再軍備—軍事財政の制度論的考察—』(同文館, 1996年), 『土地制度史学』, 158号, 1998年1月
4. ヴェルナー・ゾンバルト(金森誠也訳)『戦争と資本主義』(論創社, 1996年), 『社会経済史学』, 63巻5号, 1998年1月
5. F. H. テンブルック(住谷一彦・小林純・山田正範訳)「マックス・ヴェーバーの業績」(未来社, 1997年), 『週刊読書人』, 1997年7月25日
6. 鈴木純義『ドイツ帝国主義財政史論』(法政大学出版局, 1994年), 『社会経済史学』, 61巻3号, 1995年8/9月
7. リチャード J. エヴァンズ編(望田幸男・若原憲和訳)『ヴィルヘルム時代のドイツ—「下から」の社会史—』(晃洋書房, 1988年), 『社会経済史学』, 54巻5号, 1989年1月
8. M. クラウル(望田幸男・川越修他訳)『ドイツ・ギムナジウム200年—エリート養成の社会史—』(ミネルヴァ書房, 1986年), 『社会経済史学』, 53巻1号, 1987年4月
9. 田村信一『ドイツ経済思想史研究』(未来社, 1985年), 『社会経済史学』, 51巻4号, 1985年12月
10. 大野英二『現代ドイツ社会史研究序説』(岩波書店, 1982年), 『経済学論集(東京大学)』, 49巻1号, 1983年4月
11. D. シュテークマン『ビスマルクの遺産。ヴィルヘルム・ドイツ後期に

## 藤本建夫教授 略歴・著作目録

おける政党と団体。結集政策1897～1918年』(Dirk Stegmann, Die Erben Bismarcks. Parteien und Verbände in der Spätphase des Wilhelmischen Deutschlands. Sammlungspolitik 1897-1918, 1970), 日本経済政策学会編『経済政策の国際比較』, 勁草書房, 1973年5月

### 国際学会報告

1. Lessons from the age of post-war economic miracle in Japan; World conclave of scientists on regional cooperation in science and technology: Opportunities and challenges in the context of globalization, Nov. 2010, Indian National Academy, New Delhi.
2. The era of high economic growth and thereafter—the coming critical situation of Japanese society; International conference on science and technology policy: Future challenges in the context of globalization, March 2005, Chandigarh, India.
3. Tokyo-Zentralismus; Japanologisches Seminar der Universität Bonn, Nov. 1992.

### 社会活動

1. 「阪神・淡路大震災からの復興と大学の危機管理体制構築への教訓」, 『平成23年度財務・人事担当理事者会議第一回全体会議』, 京都国際会議場, 2011年7月16日
2. 「神戸の魅力と未来像を探る～21世紀に向けての検証と指針～」(パネルディスカッションのコーディネーター), 『一日財務局』, 大蔵省近畿財務局神戸財務事務所総務課, 1999年3月11日
3. 「沸き立つアジア経済」(シンポジウム), 『ひょうご講座 1997年度春季』, 1997年7月29日

4. 「EU にとってのアジア市場の可能性」, 『ひょうご講座 1997年度春季』, 1997年7月22日
5. 「拡大する EU」, 『ひょうご講座 1997年度春季』, 1997年7月15日
6. 「阪神大震災と政府の初期の対応 —94年度第二次補正予算案をめぐって—」, 神戸甲南会, 平生会館, 1996年2月21日
7. 「大震災と下宿生」, 『第34回全国大学保健管理研究集会』, 京都会館, 平成8(1996)年8月
8. 「阪神大震災と大学の対応」, 『国庫助成に関する全国教授会連合九州連絡協議会』, 1995年11月18日
9. 「阪神・淡路大震災からの復興をめざして」, 『平成7年度小学校学校の活性化をめざす教育経営講座』, 兵庫県立教育研修所, 1995年10月3日
10. 「『阪神・淡路大震災』による阪神地区大学の被災状況報告」, 『国庫助成に関する関西教授会連合』, 大阪経済大学, 1995年3月29日
11. 「経済政の塩加減」, 赤穂ロイヤルホテル10周年記念講演会, 1994年10月1日
12. 「地方分権について考える」, 赤穂市職員研修, 1994年2月18日
13. 「“東京一極集中” を考える」, 『平成5年度 あこう市民大学講座』, 1993年11月13日
14. 「ドイツ事情あれこれ」, 泉南甲南会, 1990年6月16日
15. 「子どもも先生」, 神戸市立山のまち幼稚園, 1988年2月8日